

ることで、日本語に対する「慣れ」も生じてくる。

日本語教室で子どもたちに

「地震、怖かったね。」

と言うと、

「うん、地震怖い。テレビ見た。怖い。教室の下に人がいっぱいいるね。」

子どもたちに言われ、3階に日本語教室のある市教育センターの1階が避難所になっている事に気がついた。

その日の帰りに1階を通り過ぎる時、つい前の月まで日本語教室に通っていた女の子の家族が避難しに来ていたことに気がついた。聞けば、地震の後ずっと近くの小学校の校庭で、家族3人、頭を抱えながら震えていたとのこと。テレビの映像を見て、津波が押し寄せてくる不安から、家には帰れなかったようだ。自分が住んでいる場所の位置関係がよくわからない、外国から来たばかりの人たちはどんなに不安だっただろう。

翌日、子どもたちが教室から帰宅する際、迎えに来ていたある保護者が言った。

「ガソリンがないので、教室には来られません。」

日本語教室は原則保護者の送迎が必要なので、このように日本語教室に通えなくなってしまう子どもたちも出てきた。通えている子どもたちも、授業中も落ち着きがないし、表情も暗い。学習に集中できない日々は続いたが、それでも子どもたちは学校に編入学するために必要な言葉や日本の学校のルールを覚えていった。

そのまま春休みを迎え、平成23年度に入った

が、年間20名を超える児童生徒が日本語教室にやってくるが、今年度2月までは震災の影響でその約半数であった。ところが、3月に入る頃から少しずつ増え始めてきている。新たに来た子どもたちの中には、

「地震で国に帰っていた。とても怖かった。」

という子どももいて、やはり、テレビの映像が怖かったのだと言う。音声のみよりもストレートに情報をキャッチできる映像で、今回の3・11を、外国から来た子どもたちはどう理解したのか。災害等での言葉のわからないというストレスは子どもにも同様ののだと改めて思い知らされた。外国から来た子どもたちを取り巻く環境として、保護者は母語しかできず、子どもは母語がわからなかったり、日本語も母語も不十分であったりする家庭の状況も見られる。あの子どもたちは、見た事や感じた事を誰に伝えるのか。もう少し時間が経ったら、またあの時の子どもたちに今はどう受け止めているか聞いてみようと思っている。



シリーズ:学生ボランティア派遣体験記5

支援は微力だけど無力じゃない

宇都宮大学国際学部国際文化学科3年 岩村 恵

私は昨年11月から、宇都宮市立西原小学校で低学年のフィリピン出身のA児を支援しています。主に授業に入り込み、文章の解釈の仕方や感想文の書き方などの補助をしています。彼にとっては、感想を考えて書くことが難しいの

ですが、地道に書く分量が、以前に比べて増えてきています。文章を書く際に、濁点や促音が抜けてしまうことも多いので、注意して指導しています。他には、保護者宛の重要な通知の英訳などを行っています。



初めの頃、A 児に話しかけてもあまり答えてくれなかったのですが、最近では私を慕ってくれ、よく自分の身の回りの話をしてくれるようになりました。「次はいつ来るの？」などと、心

待ちにしてくれていることがとても嬉しいです。

また、西原小学校の先生方には、活動を理解してもらい、様々な点でご協力いただき、大変お世話になっています。

この活動を通して、児童たちとの交流の喜びや支援の難しさ、現場の先生方の悩みなど、様々なことを感じました。グローバル化の加速する現代の日本社会において、外国人児童生徒教育の重要性は今後さらに増していくと思います。支援には継続が不可欠です。年齢を重ねていく上で、今までと違った様々な困難を乗り越えなければいけないでしょう。私にできることは微力ですが、無力じゃないと信じ、彼らのためにできることはなんでも挑戦していきたいです。

学生ボランティアに感謝

宇都宮市立西原小学校教諭 江部 まり子

昨年 11 月に、フィリピン人児童の A 児が私のクラスに編入してきました。最低限の日常会話は日本語でできるのですが、授業中の指示や学習内容がどの程度理解できるのか、不安なまま毎日を過ごしていました。今思い返すと、A 児の方が私の数倍不安だったことと思います。

そのような中、宇都宮大学で外国人児童生徒教育支援として学生ボランティアを派遣しているという情報を得、依頼しましたところ、早速、英語とタガログ語が堪能な岩村恵さんが毎週水曜日に来てくれることになりました。

初対面の時は緊張している様子の A 児でしたが、岩村さんの優しく温かな言葉かけに、A 児もすぐに心を開き、笑顔で学習に取り組めるようになりました。岩村さんと A 児は、言葉が通じただけでなく、心まで通っているように私には見えました。

学年末には、漢字や文章の読み取り、算数の文章題については満点近くの成績を取めることができるようになり、進んで発言できるくらい自信を持って学習に取り組めるようになりました。



た。また、保護者への対応についても、授業参観での母親との情報交換や学校からのお便りの英訳までしていただき、本当に助かりました。

今年度も引き続き、週 1 回来ていただけることになり、私も A 児も岩村さんに会えるのを毎週楽しみにしています。いつも子どもたちへの愛情と仕事への熱意をひしひしと感ずることができ、岩村さん。近い将来、素晴らしい先生になれることを期待しています。たいへんお世話になり、本当にありがとうございます。